

令和4年度 学校自己評価書 (川南町立多賀小学校)

項目	評価指標 及び 具体的目標	方策・手立て	自己評価		結果の考察・分析および改善策等
			項目	総合	
I 町民が生涯を通じて学び、教育に参画する社会づくりの推進					
1	家庭教育支援の充実 に努める。 ○ 家庭学習提出95% ○ 年2回、家庭学習具体的姿の提示	○ 「家庭学習の手引き」等をもとにした通信や懇談会等での啓発(学期1回以上) ○ 就学前教育との連携(2回以上の交流)	4	3.5	○ 啓発及び提出率95%以上は達成できた。2回以上の交流についても計画している。今後はホームページ等にも学習の様子を載せ、より良いモデルをより広く提示していきたい。
2	学校や家庭、地域等が一体となって取り組む教育を推進 する。 ○ 各行事等の参加率90%以上 ○ PTA執行部等との綿密な連携	○ 魅力ある行事の企画と、それらを核とした家庭、地域等との協力体制の推進 ○ PTAと一体となった企画運営の学期1回開催	3		○ 参観日は88.3%、夏の奉仕作業は89%の参加率であった。行事などをより魅力的にしていける必要がある。感染症対策で実施できない行事がある中、保護者と協力して立ち上げた企画を運営できた。 ○ 企画運営を学期1回計画できた。今後オンラインでの会議について考える必要がある。 ○ 地域と関わりのある「子ども連絡所連絡会」を再構築し、学校を核とした地域づくりができるようにした。
II 社会を生き抜く基盤を培い、未来を担う人材を育む教育の推進					
1	読書活動を推進 する。 ○ 全児童の目標設定と、その到達 ○ 読書好きの子どもを生む活動の推進	○ 年間6回の読書啓発イベントの企画運営 ○ 図書主任、学校図書館業務担当者、図書委員会の連携 ○ 読み聞かせボランティアの発足	4	3.3	○ 読書啓発、図書委員会との連携、ボランティアについて着実に実施できている。 ○ 掲示や読書欲を喚起する手立てを工夫したことで、児童一人当たりの図書貸出数が増加(昨年度比+4.2冊)しただけでなく読書の質の向上を図るための工夫に取り組んだ。
2	確かな学力を育む教育を推進 する。 ○ 授業力向上につながる授業研究の究明 ○ 単元テスト平均得点率85%以上	○ 授業の在り方を深める相互授業公開 ○ チェックポイント4+4の活用と振り返り(学期1回) ○ 個に応じた指導のためのチーム作り ○ 読解力育成による学力向上	3		○ 初期研修への模範授業を通して相互授業参観ができた。また、学期毎のチェックポイントの活用と振り返りを確実に実施できた。 ○ RSTに対する職員の理解を深めた。また、タブレットを活用した新聞記事の活用等について実践し、読解力向上につなげている。 ○ 単元テストについては平均得点85点以上を達成できている。平均得点に満たない児童を75点に、平均得点を達成できた児童を90点以上になるよう指導の工夫を図る必要がある。
3	人権を尊重し豊かな心を育む教育を推進 する。 ○ ふるさと学習の充実 ○ 「いのちを大切にする授業」の企画 ○ いじめ報告「0」無し(見つける目)	○ 畜産業見学等と命をつなげる授業 ○ 命を大切に参観授業実施(年1回) ○ 全職員で全児童育成に取り組む指導の充実	3		○ 産業推進課の方を招き畜産について学習できた。見学まで広げられなかったため、今後は地域の人材を生かして、地域の畜産について、肌で感じる学習を行っていく必要がある。 ○ 「命を大切にする授業」を6月から7月にかけて、全学年実施した。また、道徳の時間の授業参観等を通して実施している。 ○ 生徒指導関連の報告の際に挙げられた諸問題に対して全職員で取り組み、解決することができた。
4	特別支援教育を推進 する。 ○ 個別の支援について共通理解共通実践 ○ 特別支援コーディネーターを中心とした協力体制の構築	○ 月1回の生徒指導対策会時、一人一発言による情報交換 ○ 関係機関との連携・情報共有	3		○ 全員が発言を行い情報を確実に共有できた。各関係機関とも必要に応じて連携・情報共有できている。 ○ 支援を要する児童についてコーディネーターを中心に共通理解を図るとともに、支援の在り方について研修を行った。
5	郷土を愛し地域社会に参画する態度を育む教育を推進 する。 ○ 地域行事と学校教育の関連した計画 ○ キャリア教育と関連付けた計画	○ 実施内容の学校HP等での紹介(週1回) ○ 郷土への思いを高めるためのキャリア教育との連携(人財活用)	3		○ 地域の方々に参加してくださった花壇整備等について学校HPでの紹介を行ったり、教科等の学習で地域人材の皆様に支援していただいたりした。キャリア教育との視点での振り返りを充実させる必要がある。
6	キャリア教育を推進 する。 ○ キャリアパスポートを生かした教育の推進 ○ 「キャリアパスポート」による地域の行事等との関連付け	○ 小中高を見通した「キャリアパスポート」の100%活用 ○ 年間指導計画へのキャリア教育関連の挿入 ○ 地域人材の活用年間30回以上	3		○ 行事等においてキャリアパスポートを用いて振り返りを行い、100%活用できた。また、キャリア教育関連の実践も日々行っている。 ○ 30回以上、延べ人数で50人以上の地域人材の活用を予定どおり行うことができた。
7	社会の変化に対応した多様な人材を育む教育を推進 する。 ○ 学校教育及び家庭学習におけるICT活用の推進	○ 主題研究と関連させたICT機器の活用(1日2回以上の活用) ○ タブレットを活用した家庭学習の提案 ○ 学期1回以上のタブレット持ち帰り活用	3		○ 中高学年においては常に机の中にタブレットが入っている状態でICT機器の活用ができています。低学年向けの活用方法について検討の必要がある。 ○ 中高学年は週1回の持ち帰りを目標とし、実践を進めている。タブレットを使った新聞記事の活用等について家庭学習の中で実践している。
III 教育を支える体制や環境の整備・充実					
1	教職員の資質向上と働き方改革の推進 に努める。 ○ 教職員の意識改革の推進 ○ 内容に応じた校務分掌の工夫(全体・小集団・個人)	○ 日常的に相談しやすい体制づくり ○ 職員会における一人一発言 ○ 行事内容及び役割分担の見直し	3	3	○ 個別に声かけをし時間管理の在り方を支援している。今後のライフプランなどを見通した働き方についてのアドバイスを行っている。 ○ 主題研究や学校通信を通して教職員の資質向上を図り、事故・不祥事0を続けている。
2	安全、安心な教育環境の整備・充実に努める 。 ○ 緊急時・不意時における危機管理の徹底と常時危機意識の高揚 ○ 児童の危機意識を高める指導	○ 月1回の安全点検時におけるマニュアルを生かした環境整備 ○ 安全点検や登下校時の指導における危機管理マニュアルの活用(月1回) ○ 避難訓練時のTO-DOリストの活用	3		○ 書式の統一等を行いマニュアル見やすくし、実際に使えるよう改訂した。 ○ 各避難訓練時を活用し、具体的な行動例等について考えさせた。また、TO-DOリストを計画の段階で活用し、やるべきことをはっきりさせた。 ○ 児童の悩み相談の時間を生かし、児童へのセクハラ等についても敏感に把握することができるようにしている。
IV 文化やスポーツに親しむ社会づくりの推進					
1	学校体育の推進 に努める。 ○ データを生かした指導の充実 ○ 個の力を伸ばす授業及び日常指導 ○ 体を動かすことが好きになる教育の推進	○ 体力テストの結果の分析考察 ○ 体力向上プラン活用の授業構成(導入の工夫) ○ 委員会活動提案の運動遊びの開催	3	3	○ 体力テストの分析から課題を明らかにし、次年度に向けて具体的な方策について計画している。 ○ ICTを使って、自らの動きを客観的に見られるようにし、動きの改善に生かす指導等工夫を行っている。 ○ 体を動かすことを楽しみつつ、必要な運動を行うことができる授業の工夫等を行ったり、教職員による外遊びの指導を行ったりして個の力を伸ばしている。